

平成 31 年度予算主要事業の概要

(事業別説明資料)

企画部



* 元号の表記について

「平成」は平成 31 年 4 月 30 日までとなりますが、新しい元号がまだ決定していないため、本冊子においては同年 5 月 1 日以降についても「平成」により表記します。

目 次

高齢者に配慮した「広報ひだ」の作成	1
飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト	2
飛騨えごまの里推進プロジェクト	3
台湾新港郷との友好交流の推進	4
東京大学宇宙線研究所との連携	5
飛騨市ドローンプロジェクトの推進	6
みんなの社会科見学ツアーの開催	7
「ひだプラす」によるまちづくりの支援	8
小さなまちづくり応援事業	9
飛騨みんなの博覧会の開催	10
ロケツーリズムの推進	11
関係人口を活用した地域課題解決プロジェクト	12
飛騨市ファンクラブの交流推進	13
「ふるさと兼業」の活用推進	14
魅力ある地元高校づくりの推進	15
ふるさと子ども大使	16
地域おこし協力隊の定住・起業支援	17
ふるさと納税の推進	18

新規 高齢者等に配慮した「広報ひだ」の作成

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
100	一般財源	100	使用料	100

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

市の広報誌「広報ひだ」は、市の取り組みや行事などのお知らせ、菓草コーナーや戸籍の情報など、様々な情報を市民の皆様にお伝えする大事なツールの一つです。その中で、これまで広報ひだの作成にあたり使用していた書体は、一般的な書体であったことから、高齢者や弱視の方には文字が見づらい誌面となっていました。

このことから、平成31年度には、見やすい書体を導入した広報ひだを作成することで、市民の皆様へ様々な情報をお届けします。

3 事業概要

「文字のかたちがわかりやすい」「読み間違えにくい」「文章が読みやすい」といわれるユニバーサルデザイン書体を含むモリサワフォントを導入し、高齢者や弱視の方に配慮した広報ひだの作成をおこなうとともに、魅力ある紙面内容と、読みやすい記事の作成に努めます。



(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	2 文書広報費
所 属	企画部秘書広報課 TEL0577-73-7468			予算書	P. 47

[拡充] 飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
5,311	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">県支出金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,700</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">3,611</td> </tr> </table>	県支出金	1,700	ふるさと創生基金	3,611	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">委託費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,300</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">2,200</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,811</td> </tr> </table>	委託費	1,300	負担金	2,200	その他	1,811
県支出金	1,700											
ふるさと創生基金	3,611											
委託費	1,300											
負担金	2,200											
その他	1,811											
(前年度予算 7,531)												

2 事業背景・目的

薬草ビレッジ構想推進プロジェクトは、市内NPO法人、福祉団体、薬草愛好団体、地元企業等との協働により、身近な薬草を取り入れて、市民の健康づくりを展開するものです。平成30年度には情報のプラットフォームとなる飛騨市薬草公式WEBサイトの作成や、市内外の薬草に興味を持たれた方へSNS等を活用した情報発信を積極的に行ってきたところです。

一方、この事業を更に展開するためには、市民や市外の方々が体験して学び、薬草に気軽に触れ、薬草に関する商品を購入することができる拠点の整備が必要です。

このため、平成31年度には市内の空き家を活用した拠点施設の整備をおこないます。また、市外への薬草活用のPRのため、全国シンポジウムを誘致するとともに、市内への普及啓発も継続して実施します。

3 事業概要

① 【新規】薬草展示・体験拠点施設の開設 (2,713千円)

官民との協働により、薬草の展示や、ティーセレモニーなどの体験、商品の販売等を行う拠点施設を、全国薬草シンポジウム開催時期に合わせ古川町市街地に開設し、その運営にあたっては、市内で薬草活用を推進している団体に委託します。

② 【新規】全国薬草シンポジウム2019 in 飛騨の開催 (2,200千円)

第8回目となる全国薬草シンポジウムを誘致し、市内外の方々に薬草について興味をもってもらうとともに、全国で薬草の取り組みを推進している自治体や団体との交流を深めます。

開催予定日：10月12日（土）・13日（日）

③ 【継続】ワークショップ等の開催 (398千円)

様々な団体等と協働したワークショップを開催し、市民への正しい薬草の取り入れ方の啓発を行います。

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部総合政策課 TEL0577-73-6558		予算書	P.50～52	

拡充 飛騨えごまの里推進プロジェクト

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
671	雑入	300	負担金	590
	一般財源	371	謝礼	48
			その他	33
(前年度予算 1,205)				

2 事業背景・目的

飛騨えごまの里推進プロジェクトは、飛騨地域産えごまの消費拡大と市民の健康増進につなげる農商工連携の取り組みです。平成28年度より新品種「飛系アルプス1号*」の生産拡大を行っており、平成30年度は農商工連携のプラットフォームとなる「飛騨えごまの里推進協議会」を立ち上げ、新商品開発や情報発信を強化するとともに、良質なえごまを販売するための選別機を導入するなど、取り組みの推進を図ってきました。

平成31年度は、選別機によって新たに活用が見込める残渣について、市内への活用を研究し、商店の新商品開発、飲食店や宿泊施設での常設メニュー化を重点に、官民一体で取り組みます。

※平成25年2月に岐阜県、飛騨市、アルプス薬品工業㈱と共同でルテオリン等を多く含む品種を「飛系アルプス1号」として登録したものです。

3 事業概要

① 【拡充】飛騨えごまの里推進協議会の運営（ゼロ予算）

農商工連携を強化するためのプラットフォームである協議会を定期開催し、新商品開発や地域内外での消費拡大などへの取り組みを強化します。また、岐阜県中山間農業研究所が鳥被害等のリスク軽減のために研究中の改良品種の栽培活用を共同で進めます。

② 【継続】飛騨えごまの食育遠足（81千円）

市内の親子向けにえごまの生産から食卓までの食べ物の循環を知ってもらい、正しい食用油の使い方等を学びながら飛騨えごまの食事を楽しむ食育事業を行います。

③ 【継続】地域内消費を促す取り組み「飛騨えごま月間」の開催（590千円）

1ヶ月にわたり、市内飲食店等でのえごま料理等の提供をおこなうほか、スポットでワークショップを開催します。また、販促グッズを作成し、市内協力店等でのえごまの里PRを図ります。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	2 商工振興費
所 属	企画部総合政策課 TEL0577-73-6558		予算書	P.99～100	

[拡充] 台湾新港郷との友好交流の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,468	ふるさと創生基金	2,468	補助金	750
			旅費	1,418
			その他	300
(前年度予算 4,300)				

2 事業背景・目的

市では、これまで20年以上にわたり民間レベルでの交流を続けてきた台湾新港郷と、平成29年10月に友好都市提携を締結し、自治体レベルの交流がスタートしました。平成30年10月には締結一周年記念事業で、新港郷から約100名の訪問団をお招きし、相互の文化交流を行い、市内高校生9名が新港郷へのホームステイで、新港郷の文化や魅力に触れ、新港郷民との交流を図ってきました。

平成31年度は、こうした交流を更に推進するため、特に若い世代間の交流を深め、互いの文化や伝統等を市内全域に紹介し浸透させることで、市民が直接、国際交流の担い手となるような人材の育成と組織化を図ります。

3 事業概要

① 【新規】飛騨市と新港郷の小学生の英語学習交流 (784千円)

古川小学校を最初のモデル校として、古川小学校6年生と新港郷の小学6年生とが、スカイプ等のテレビ通話を活用して、お互いの自己紹介やそれぞれのふるさと自慢などを英語で行う授業を年3回程度実施します。

② 【新規】飛騨市・新港郷文化交流 in 新港郷 (824千円)

日本や飛騨市の伝統文化を体験・紹介するワークショップを新港郷で開催します。

③ 【新規】新港郷学生のホームステイ受入に係る支援 (110千円)

新港郷からホームステイを受け入れる際の市内体験メニュー等の費用を支援し、あわせて市内高校生との歓迎交流会を開催します。 ○受入予定：7月頃

④ 【継続】新港郷学生交流支援補助金 (750千円)

市内高校生が新港郷へホームステイされる際の費用の一部を支援します。

○補助額：一人あたり上限5万円

○実施予定：8月頃

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部総合政策課		TEL0577-73-6558	予算書	P.50～51

継続 東京大学宇宙線研究所との連携

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
2,378	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ふるさと創生基金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,328</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">1,050</td> </tr> </table>	ふるさと創生基金	1,328	負担金	1,050	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">手数料</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">575</td> </tr> <tr> <td>使用料</td> <td style="text-align: right;">385</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,418</td> </tr> </table>	手数料	575	使用料	385	その他	1,418
ふるさと創生基金	1,328											
負担金	1,050											
手数料	575											
使用料	385											
その他	1,418											
(前年度予算 1,597)												

2 事業背景・目的

市内には、国内外から注目を集めている宇宙物理学研究拠点が多数存在し、東京大学特別栄誉教授 小柴昌俊先生と東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章先生のお二人のノーベル物理学賞受賞で、その注目度は更に高まり、研究施設見学希望も多く寄せられますが、一般見学は限られた人数で年にごく数回に制限されています。また、道の駅である宙ドーム・神岡には宇宙物理学研究拠点の町に来た証となる土産物を求める声が後を絶ちません。そうした声に応える施設として、宙ドーム神岡内に平成31年3月27日にオープンする「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」を拠点に、東京大学宇宙線研究所を始めとした研究機関との連携を図り、宇宙物理学研究を身近に感じてもらう事業を推進することにより研究の理解促進と地域振興を図ります。

3 事業概要

① 宇宙物理学研究啓蒙事業 (2,378千円)

東京大学宇宙線研究所との連携協力協定に基づき、次の事業を実施します。

- S K一般公開の開催
国の要請に基づき実施する見学会を継続実施します。
- 講演会の開催
宇宙物理学及び関連する講師陣による講演会を開催します。
- サイエンスカフェの開催
カミオカラボ内で宇宙物理学を身近に感じてもらうためのワークショップを開催します。

② 宇宙物理学研究関連商品開発事業 (ゼロ予算)

東京大学宇宙線研究所(主にスーパーカミオカンデ)の関連商品を飛騨市内の商工業者が製作できるよう東京大学宇宙線研究所と連携しその体制を作ります。

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課		TEL0577-62-8904	予算書	P.50～51

[拡充] 飛騨市ドローンプロジェクトの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,109	ふるさと創生基金 3,109	備品購入費 1,754 補助金 800 その他 555
(前年度予算 1,500)		

2 事業背景・目的

市では、「空の産業革命」とも言われているドローンに注目し、あわせて、流葉スキー場の夏場の利活用を図る観点から、平成30年7月に「飛騨流葉ドローンパーク」をオープンしました。無料で飛ばせるドローン専用飛行場としては国内最大規模を誇り、平成30年度は悪天候に見舞われながらも84名と多くの方にご利用いただきました。

東京や大阪からも利用者が多く訪れていることから、引き続きPRを強化するとともに、既存パークの魅力向上と新たなパークの開設に向けて調査を行い、ドローンを活用した誘客を更に推進します。

3 事業概要

① 【拡充】飛騨市ドローンパークの開設 (1,474千円)

飛騨流葉ドローンパークの第1フィールドの管理運営とトイドローン専用の第2フィールドの新設を行います。また、市内のスキー場(旧も含む)等における第2のドローンパークの開設に向けた調査を実施します。

② 【新規】ドローンラボの開設 (140千円)

飛騨流葉ドローンパーク内において、利用者が休憩やドローンの修理、充電等ができるスペースを確保し、更なる利用者増加を目指します。

③ 【新規】ドローンの購入 (695千円)

トイドローン等を4台購入し、ドローン体験会等で参加者に貸し出すことで、子どもたちにドローンの楽しさを体感してもらいます。

④ 【新規】ドローン操縦技術認証制度の調査・検討 (ゼロ予算)

より多くの市民にドローンに興味を持ってもらため、市独自の認定制度を検討し、ドローンでのまちづくりを加速します。(kids、初級といった初心者向け)

⑤ 【継続】ドローンフェスの開催 (800千円)

飛騨流葉ドローンパークを活用したイベントを開催します。

(款) 2 総務費	(項) 1 総務管理費	(目) 6 企画費	7 地域振興費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904	予算書	P.50~51、53

拡充 みんなの社会科見学ツアーの開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
697	一般財源	697	委託料	697
			食糧費	15
(前年度予算 600)				

2 事業背景・目的

市内には、日常では訪れることがない民間企業の製造工場や上下水道施設等の公共施設、高性能林業機械による森林伐採風景など、その現場でしか見聞できず、一般に公開されていない現場が数多くあります。

これらの現場を観光コンテンツとして公開するため、関係する企業等の理解や協力を得るとともに、企業見学等を繋ぎ合わせてその価値を高め、観光誘客を図ります。

3 事業概要

魅力的なテーマ性を持たせて、観光パンフレット等に載らない優れた技術や技能を有する市内企業等を観光コンテンツとして繋ぎ合わせます。また、ツアーの魅力を高めるため、食事には地元食材を使用した「ランチバイキング」などを提供し飛騨市の魅力をPRします。なお、参加者は市内外を問わず、広く募集します。

また、これまでのツアーに加え、平成31年度は、新たに「水道施設体験ツアー」コースを追加し、水道水ができるまでの行程や、災害時の節水の重要性など、水道についての理解と関心を深めていただくことを目的とした水道施設だけのディープな体験ツアーを開催します。

【参加実績】

平成29年 8月19日 (土) 参加者：41名 (女性：31名、男性：10名)

平成30年11月17日 (土) 参加者：8名 (女性：6名、男性3名)

11月24日 (土) 参加者：11名 (女性：9名、男性2名)

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課	TEL0577-62-8904		予算書	P. 51
会 計	水道事業会計				
所 属	環境水道部水道課	TEL0577-73-7484		予算書	P. 230

[拡充] 「ひだプラス」によるまちづくりの支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
878	一般財源	878
		費用弁償 442
		謝礼 210
		その他 226
(前年度予算 800)		

2 事業背景・目的

ひだプラスは平成29年11月に市内の若手まちづくり関係者らで発足しました。

市内のまちづくり団体を繋ぐことを第一の目的とし、飛騨市小さなまちづくり応援事業の審査会運営、まちづくりを学ぶためのセミナーの開催、各団体との交流（キャラバン）、団体を集めての語る場の提供（WORLD BAR）、まちづくり塾「まちプラス」の定期開催や、まちづくり団体の活動を紹介する「まちづくりレシピ」の連載を実施してきました。

平成31年度は、まちづくり活動の表彰制度を創設し、これまで以上に市民の皆さまに各団体の活動を知ってもらう機会を増やすとともに、新たなまちづくり団体の発掘や、横のつながりの強化を図ります。

3 事業概要

① 【新規】まちづくり大賞（仮称）の創設（108千円）

市内のまちづくり活動の中から市民の投票により「まちづくり大賞（仮称）」を決定し、副賞として授賞団体の紹介パンフレットを作成します。

② 【継続】まちづくり塾の開催（368千円）

全国のまちづくり成功者や、市内でがんばっている団体の方を講師として招き、その経験談や苦労話を聞くことで、自らのまちづくりのヒントを見つけ、活動の活性化につなげてもらえるよう、交流会を年6回開催します。

③ 【継続】まちづくりレシピの広報掲載（ゼロ予算）

市内のまちづくり団体、イベント、個人を取材し、毎月の広報ひだで紹介することで、多くの市民に団体の活動を知ってもらい、活動に参加するきっかけを作ります。

④ 【継続】ひだプラスのスキルアップ（402千円）

まちづくり団体をつなぎ、より一層、市のまちづくりを推進するため、慶應義塾大学の小島特任教授に引き続きアドバイスいただき、メンバーのスキルアップを図ります。

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課		TEL0577-62-8904	予算書	P.50～51

拡充 小さなまちづくり応援事業

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
7,000	一般財源	7,000
		補助金 6,710
		印刷製本費 200
		その他 90
(前年度予算 7,291)		

2 事業背景・目的

この事業は、市民自らが行う事業プランを公募し、応募のあった事業プランを市民参加型の審査会で審査して、市が補助金を交付する制度であり、これまで多くの団体に活用いただき、平成 30 年度には 21 団体、約 5,700 千円を交付する見込みです。

平成 31 年度は、これまでの各部門に加え、大きな支援を必要としない団体への補助以外での小さな支援を新たに追加し実施します。

3 事業概要

○審査会の開催

どなたでもご観覧いただける審査会を開催し、来場者の皆さま全員に審査していただき助成の可否を決定します。

○報告会の開催

実施された事業は、事業完了後に市民の方々へ向けた事業報告会を開催し、広く周知を図ります。

○部門別補助内容

新たに「ちょこっと支援部門」を追加します。

種まき部門	初めて行う事業プラン
若葉部門	2～3年目の事業プラン
花盛り部門	4年目以降の事業プラン

【新規】ちょこっと支援部門 補助金ではなくちょっとした行政支援を行います。

(例) ・広報誌でのイベント告知 (半P～1P)

・イベント時の公共施設利用料の免除

※「ちょこっと支援部門」は、随時募集し、審査会はありません。他の部門よりも手続きが簡単です。

(款) 2 総務費	(項) 1 総務管理費	(目) 6 企画費	
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904	予算書	P.50～51

継続 飛驒みんなの博覧会の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,504	一般財源	4,504	委託料	4,248
			その他	256

(前年度予算 4,380)

2 事業背景・目的

飛驒みんなの博覧会は、市民が仕掛け人になって開催する体験プログラムで、魅力ある地域資源の掘り起こしや市民の活躍機会の創出を通じ地域の活性化を図ることを目的として、平成29年2月のプレ開催からスタートし、これまで、プログラム化までの支援やセミナーを開催するなどして、プログラム数の増加を図ってきました。また、平成30年度には冬のプログラムも新たに追加し、雪国ならではの体験プログラムの創出を図りました。

今後も、継続実施することでイベントの認知を高め、市民や観光客が楽しめる体験プログラムを数多く提供し広くPRすることで、滞在時間の延長、着地型観光の推進を図ります。

3 事業概要

平成31年度は、60プログラムを目標に、まだ発掘できていない魅力の掘り起こしに努めます。また、プログラム提供者等と連携し、地域一体となった魅力の発信に取り組むことで、参加者の増加を図ります。

(参考：H28 10プログラム、H29 35プログラム、H30 54プログラム)



(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904			予算書	P. 101～102

拡充 ロケツーリズムの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,485	ふるさと創生基金	4,185	委託料	2,453
	一般財源	300	補助金	600
			その他	1,432
(前年度予算 5,208)				

2 事業背景・目的

ロケツーリズムとは、“ロケ地を訪ね、その地のおもてなしに触れ、グルメを堪能し、その地のファンになること”であり、そのきっかけとなるロケの誘致には、エキストラやロケ弁、宿泊施設などのスムーズな受入態勢が必要不可欠となっています。

このため、平成 29 年度から専門的な組織であるロケツーリズム協議会に参加し、ロケ受入に必要な知識や権利処理などの専門的知識を学び、官民一体となったロケ受入組織の強化を図ってきたところです。

しかし、製作会社が多数所在する東京圏から距離の遠い飛騨市へロケ等を誘致するためには、業界関係者との人間関係の更なる構築と的確な情報発信が重要であることから、平成 31 年度は、首都圏等からのロケ誘致につなげる新たな支援策を創設し、あわせて、これらの専門組織と連携する中核人材の育成を引き続きおこないます。

3 事業概要

① 【新規】飛騨市ロケーション誘致促進補助金の創設 (600千円)

地域のおもてなし力及び本市の知名度向上のため、ロケ誘致施策として市内で行われるロケーション活動費用(宿泊費、交通費他)の一部を支援するとともに、本市に縁のある作品を市内で上映する際の映像使用料を支援します。

- ロケ活動補助金 対象経費の1/2、上限50万円
- 映画上映会補助金 映像使用料の補助上限10万円/1作品(最大30万円まで)。

② 【継続】ロケツーリズム推進事業 (3,341千円)

ロケ受入組織の核となる人材育成や、制作者を招聘するロケハンツアーの実施、また、全国ふるさと甲子園に継続出場し飛騨市の認知度向上を目指します。

③ 【継続】ぎふアニメ聖地連合事業 (544千円)

ぎふアニメ聖地連合加盟自治体を中心に、アニメを活用した地域振興や権利処理について先進地や専門家を招きセミナーを2回開催します。

(款)	7 商工費	(項)	1 商工費	(目)	3 観光費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904		予算書	P.101~104	

新規 関係人口を活用した地域課題解決プロジェクト

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,660	ふるさと創生基金	1,660
		謝礼 416
		費用弁償 299
		その他 945
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

市では、人口減少が進む中、市外の人との交流を推進し地域の活力を生み出すために「観光客以上移住者未満」と定義される「関係人口」に着目し、『飛騨市ファンクラブ』や『種蔵村民制度』の仕組みをつくり、関係人口の増加に取り組んでいます。また、これまで市外のファンを獲得してきた市内事業者の皆さまの努力もあり、飛騨市に住んでいない方でも飛騨市へ想いを寄せる人々は増え、少数ですが実際に飛騨市で活動し、市民の方々と交流される方が増えてきました。

本プロジェクトでは、産学官民の連携により「マーケティング」やアカデミックな「調査」などを組み合わせたファンづくりノウハウの構築をおこない、市内の様々な地域課題を関係人口を活用して解決するプロジェクトを立ち上げます。

3 事業概要

① 飛騨市の関係人口の調査と研究 (529千円)

既に本市の関係人口となられた方々を調査し、どのような方がどのようなターニングポイントやキーマンとの接触で本市のファンとなり、どういった貢献をなされているのかを、飛騨地域の民間企業や住民の方、専門の研究者・東京大学教授・楽天株式会社等、外部の組織と連携し研究します。

② 関係人口の契機となる出来事の実験的検証 (1,131千円)

研究を基に、飛騨米のブランディング等の地域課題解決への関わりの中から、本市の関係人口となるターニングポイントやキーマンを創出する実証を行うとともに、関係人口となった方々と課題解決に向けた活動を行います。

③ 「飛騨ファンづくり塾」の開催 (ゼロ予算)

実証結果を基に、関係人口となるファンづくりを行いたい市内事業者等を対象とした勉強会「飛騨ファンづくり塾」を、楽天株式会社など様々な外部企業と連携し開催します。

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課		TEL0577-62-8904	予算書	P. 50～51

拡充 飛驒市ファンクラブの交流推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
4,831	ふるさと創生基金 4,831	印刷製本費 2,350
		通信運搬費 900
		その他 1,581
(前年度予算 3,508)		

2 事業背景・目的

飛驒市ファンクラブは、会員が市の魅力ある情報を多方面に発信し応援する会として平成28年度に創設しました。平成30年度には、会員数2,700名を突破（平成31年1月末時点）し、飛驒市の認知度向上や魅力発信に寄与しています。

平成31年度は、市の魅力発信、新規会員の獲得を継続するとともに、更に会員との交流を拡充し、市内外のファン同士のつながりを強化します。

3 事業概要

① 【新規】飛驒市ファンクラブ特産品購入支援制度の創設（200千円）

レギュラー会員が、市が指定するネットショップで飛驒市産品を購入し、知り合いなどにPRされる場合、購入時の送料を市が負担する制度を創設します。

② 【新規】市内協力店舗表示プレート整備（100千円）

飛驒市を訪れた方に現在登録されている44店舗の協力店舗が明確に分かるよう、協力店舗のプレートを作成し掲示します。

③ 【拡充】「ファンの集い」の開催（1,341千円）

東京、大阪、岐阜市、市内の4会場でのファンの集いと、市内の魅力を体感できるファンクラブツアーを継続するとともに、新たに県外会員が参加者募集から会場設営等までを自分たちで企画する会合等へ、市長と職員が手土産を持って訪問し、遠方の会員の皆様との交流を行う「飛驒市おでかけファンの集い」を開催します。

④ 【拡充】飛驒市ファンクラブの運営（3,190千円）

ファンクラブ通信の発行やSNSを活用した情報発信を継続するとともに、新たに会員向けにオリジナルデザインの4パターンの名刺を作成し、ファンクラブのPR強化を図ります。また会員専用アプリの開発に向けた調査・情報収集を行います。

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課		TEL0577-62-8904	予算書	P.50～51

新規 「ふるさと兼業」の活用推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
500	ふるさと創生基金	500
		謝礼
		費用弁償
		300
		200

(前年度予算 0)

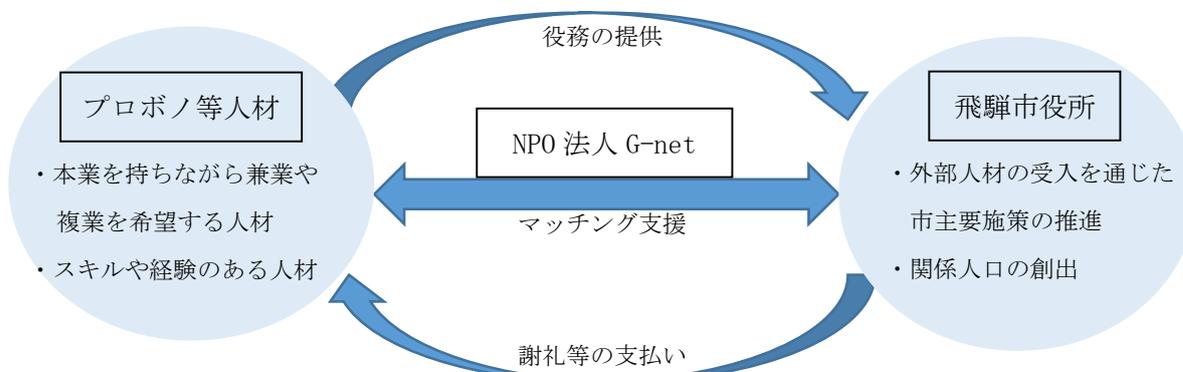
2 事業背景・目的

市では、人口減少による担い手不足・継承者不足が依然解消されない中、市外から飛騨市を応援し関わりを持っていただける方々との交流を推進しています。他方で、全国的な働き方改革の推進から、「兼業」「複業」といったライフスタイルやワークスタイルに合わせた多様な働き方が注目されており、職業上持っている知識やスキル、経験を活かして社会貢献活動（プロボノ）などをしたいと思う方が増えています。

今回、こういった社会貢献を望んでいる方々と、市が政策的に推進する主要事業をマッチングする「ふるさと兼業」を試験的に実施し、「仕事」「地域貢献」という視点から飛騨市への応援者を増やすと同時に、地域課題の解決を図り、あわせて、地域産業の担い手不足への活用を検証します。

3 事業概要

インターンシップなどの人材マッチングに実績のあるNPO法人G-netと連携し、兼業・複業やプロボノなど多様な働き方の人材と飛騨市ファンクラブ事業などの市主要事業とのマッチングを行い、多様な人材の知見等を政策に活かすとともに、市のファン拡大を図ります。



(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904			予算書	P. 50

拡充 魅力ある地元高校づくりの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,049	一般財源	2,049	謝礼	288
			委託料	900
			その他	861
(前年度予算 1,937)				

2 事業背景・目的

少子化が進行する中、吉城高校及び飛騨神岡高校は各校の特色を活かしつつ、高校の魅力を発信するとともに地域と連携した取り組みを強化しており、市としても、両校は地域の活性化につながる重要な高校として位置付けています。

平成31年度は、「飛騨市学園構想」の下、生徒たちの課題解決能力の向上を目指し、地域や高校と連携した取り組みを展開します。

3 事業概要

① 【拡充】高校生による情報発信の推進 (1,410千円)

これまで、市が主導で製作していたタブロイド紙について、今後は、生徒自身が高校の魅力を主体的に発信できるように、吉城高校及び飛騨神岡高校の生徒で構成する「高校生編集室」を設立し、高校生を中心に新聞折込チラシやフリーペーパーを活用したPRを実施します。

② 【継続】課題解決能力育成のための出前授業の実施 (387千円)

現代社会で求められている課題解決能力を育成するために、職員等による出前授業の実施や地域と連携した事業を推進します。地域をフィールドとした活動を展開するために、吉城高校のキャリア教育コーディネーターや飛騨神岡サポーターと連携を図りながら、高校と地域の協力体制の強化を図ります。

③ 【継続】宇宙物理学研究機関とのふるさと事業 (東京大学・東北大学との連携) (252千円)

宇宙物理学研究機関の研究者及び大学院生等による両校生徒への様々な助言や交流機会の提供を行います。

(款) 2 総務費	(項) 1 総務管理費	(目) 6 企画費	
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904	予算書	P.50～51

継続 ふるさと子ども大使

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
253	一般財源	253
		使用料 158
		その他 95

(前年度予算 388)

2 事業背景・目的

市では、市内のこどもたちが、伝統・文化・自然等を学ぶ機会を設けて、地域に誇りと愛着をもつ子どもを「ふるさと子ども大使」として任命しています。

子ども大使には、市主催の行事に参加していただき、ふるさとへの愛着を深めていただくとともに、セレモニー等で大使の役割を果たして頂くなど活動の機会を広げます。

3 事業概要

市内の小学4年生から6年生を対象に募集し、「ふるさと子ども大使」を任命します。

市内4町の魅力ある施設をめぐるバスツアー「ふるさと講座」へ参加してもらい、楽しく飛騨市の勉強をしていただいたあと、山中和紙で作成した特製の任命証を交付し、PR用として名刺を配布します。

学校を通じて参加者を募集し夏休みに開催することで、自由研究等に活用していただくとともに、名刺をたくさん配って飛騨市の伝統文化や自然、魅力をPRすることで、地域に愛着を餅持ち、ふるさと飛騨市を愛する子ども達を育成します。

【参加・任命実績】

平成28年度 30名 (河合小4名、神岡小2名、古川西小8名、古川小16名)

平成29年度 38名 (河合小3名、神岡小8名、古川西小6名、古川小21名)

平成30年度 34名 (河合小3名、神岡小5名、古川西小5名、古川小21名)

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904			予算書	P. 50～51

新規 地域おこし協力隊の定住・起業支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,537	県支出金	768	補助金	2,537
	一般財源	1,769		

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

市では、都市地域から過疎地域へ生活の拠点を移し、地域協力活動を通じて定住・定着を図る「地域おこし協力隊」を積極的に受け入れ、隊員の地域おこし活動を通じた外部目線によるまちおこしを推進しています。

今回、飛騨市のまちづくりに貢献し、3年間の任期を終える隊員の定住と起業を支援する新たな制度を創設し、市民としての更なる活躍を後押しします。

3 事業概要

① 起業支援補助金 (1,000千円)

地域おこし協力隊員の起業にかかる費用の一部を支援します。

対象者：隊員となった日から2年以上勤め、隊員卒業後1年以内に起業する
地域おこし協力隊員

対象経費：起業に要する経費（設備、備品費、土地・建物賃貸借費、法人登記
知的財産登録、マーケティング、技術指導受入等）

補助額：1人あたり上限100万円

② 定住支援補助金 (1,537千円)

地域おこし協力隊員の飛騨市定住にかかる費用の一部を支援します。

対象者：隊員となった日から2年以上勤め、隊員卒業日から飛騨市に定住する
地域おこし協力隊員

補助期間：卒業日から2年間

対象経費：①住環境の維持整備に要する経費（家賃、住宅新築・購入費用）

②交通手段の確保に要する経費（自動車借上料、購入費用、燃料費）

補助額：1人あたり2年間で上限100万円まで複数回申請可能

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	6 企画費
所 属	企画部地域振興課		TEL0577-62-8904	予算書	P.52

継続 ふるさと納税の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
301, 198	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">3, 698</td> </tr> <tr> <td>寄付金</td> <td style="text-align: right;">297, 500</td> </tr> </table>	一般財源	3, 698	寄付金	297, 500	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">積立金</td> <td style="text-align: right;">158, 626</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td style="text-align: right;">90, 000</td> </tr> <tr> <td>賃金</td> <td style="text-align: right;">3, 635</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">48, 937</td> </tr> </table>	積立金	158, 626	報償費	90, 000	賃金	3, 635	その他	48, 937
一般財源	3, 698													
寄付金	297, 500													
積立金	158, 626													
報償費	90, 000													
賃金	3, 635													
その他	48, 937													

(前年度予算 202, 367)

2 事業背景・目的

飛騨市のふるさと納税寄附額は平成29年度約3.5億円、平成30年度も昨年を上回るこ
とが確実となりました。平成31年度も継続して「ふるさとチョイス」、「楽天」など6つ
のWEBサイトを中心に、ふるさと納税を推進します。

また、市内事業者との連携を強化し、市の魅力的な特産品や事業者を全国に発信しな
がら、新しい商品や事業者の発掘、サービスの開発に努めていきます。更に、寄附金の
使い道を公表していくことで、「ふるさと納税」をきっかけとした飛騨市と市外の方々
の新たなつながりをつくっていきます。

3 事業概要

寄附していただいた方とのつながりを大切にした運営を行います。

●PR

返礼品や事業者紹介の魅力化、決済方法の拡充など、寄付者の利便性向上を図り、
あわせて、寄附金の使い道の分かりやすい情報発信を行います。

●返礼品の充実

現在中心となっている特産品に加え、体験型やサービスの拡充を進めるなど飛騨
市ならではの特色ある返礼品の充実を目指します。また、ふるさと納税を入口とし
た「飛騨市ファンづくり」を行うため、「返礼品の送付」という寄附者との接点を
活用し、飛騨市の生産者や事業者のストーリーを市オリジナル新聞という形で伝え
ていきます。加えて、昨年度より実施している市内事業者との連携強化や事業者間
の交流を目的とした勉強会を継続して開催します。

●サイト数等

- ・サイト数 6つ
- ・使い道メニュー 7つ

(款)	2 総務費	(項)	1 総務管理費	(目)	1 一般管理費
所 属	企画部地域振興課 TEL0577-62-8904		予算書	P.44～47	